



ニュースレター第50号では、令和2年12月15日にOnlineで実施しましたセミナー「競争的研究資金獲得に向けてイノベーション創出強化研究推進事業を対象に」について報告します。

### セミナーの目的

今後の農林水産省の競争的資金への応募に当たりましては、社会実装やビジネスモデルの構築が強く求められていく事になります。こうした新たな情勢に対応すべく、競争的研究資金獲得に向けてセミナーを企画しました。今回のセミナーでは、令和3年度のイノベーション創出強化研究推進事業への応募支援のため、事業の新たな変更点と、昨年度の同事業に応募し採択されました2課題について、研究代表者から採択までの工夫、申請・審査への対応、さらには採択に向けての留意点などについて話題提供をお願いしました。

### 開催の日時と場所

開催日：令和2年12月15日（15:00～16:50）

開催場所：Zoomを利用したOnline開催

参加者（申込数）：43名

### プログラム

話題提供は、以下のとおりである。

話題提供 1 令和3年度イノベーション創出強化研究推進事業の主な変更点と研究計画作成における社会実装への対応

東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 門間 敏幸

話題提供 2 チルド米飯ニーズと加工製造課題に即応する超多収低アミロース米システムの早期育成（応用研究ステージ）採択までの工夫と採択に向けての留意点

岩手県農業研究センター生産基盤研究部 小舘 琢磨 氏

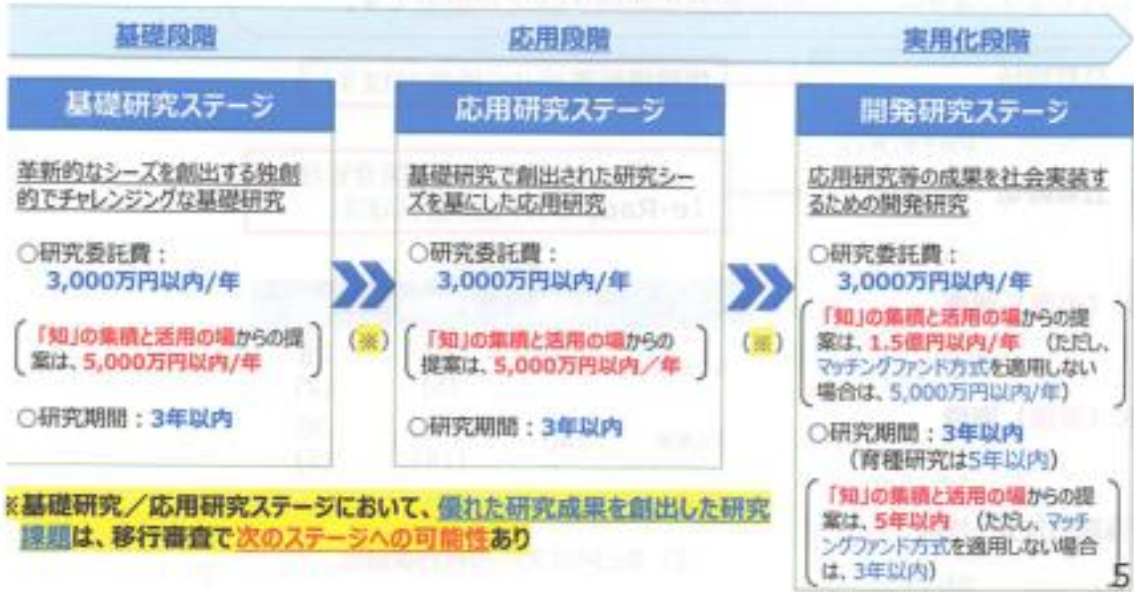
話題提供 3 儲かる業務用米生産を実現する無コーティング種子湛水直播技術の確立（開発研究ステージ）採択までの工夫と採択に向けての留意点

農研機構 東北農業研究センター水田作研究領域 白土 宏之 氏

東北ハイテク研の門間 CD は、令和 3 年度のイノベーション創出強化研究推進事業の主な変更点と研究計画作成における社会実装の重要性について解説するとともに、申請書を書く場合の留意点について説明した。

# イノベ事業・各研究ステージの特徴

- 農林水産・食品分野における『産学連携研究』による研究開発を、**基礎から実用化段階まで継ぎ目なく推進**
- 「知」の集積と活用<sup>※</sup>の場からの研究コンソーシアムの提案課題は、**ポイント加算(1点～10点)**され、**研究費・研究期間の拡充あり**



岩手県農業研究センターの小舘さんは、応用研究ステージでの3回目の挑戦で採択に至るまでの応募の留意点について体系的に整理・説明した。特に書類審査で不採択となった1回目の応募、2次審査（面接）で不採択となった2回目の応募時の問題点を克明に分析し、3回目の採択にむけてどのように申請書を改善したか、また面接への対応を行ったかを克明に説明してくれた。その体験から整理されたイノベ事業採択のノウハウは、全ての競争的資金の獲得につながる貴重な提言であった。

### 1回目の応募（1次不採択）



- 体制不十分で、応募予定はなかったが。。
- 明らかな準備不足
- やりたいこと多すぎ

不採択理由（要約）

- ① 研究費配分、人員構成が**細分化しすぎ**。選択と集中が必要
- ② **想定される問題点**に対して、具体的な**説明が不足**。
- ③ **これまでの成果が、科学的裏付けが乏しく**、応用に不安

### 2回目の応募（2次不採択）



- 1次審査(書類)は、万全の体制で臨めた？
- 2次審査(面接)...惨敗
- 2次は「負け試合」→加工課題担当が異動

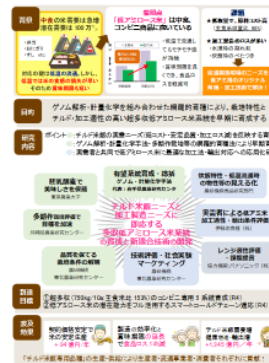
不採択理由（要約）

- ① コンビニの他、働く主婦・外食産業・輸出等、**幅広い視野**で育種は具体的だが、**コールドチェーン部分の計画が不明確**
- ② 実際の選抜方法が不明瞭。
- ③ **研究期間内の育種が可能か不安**

## 私なりに考えた「ポイント」

- 「求められていること」は、すべて各種の説明会資料に書いてある（ヒント or 答え）
- 「キーテク」・「訴求ポイント」は何か。
- 「イノベーション」を感じてもらえるか。
- 農林水産省の予算なので、最終的には、「生産者へのメリット」は何か大事。
- 期間内の「実現の可能性」を見せられるか
- 「社会実装」の可能性を感じてもらえるか
- 審査員もヒト。「提案書は簡潔に」

## 3回目の応募（採択）



- コロナ禍で助かった。（二次は書面審査）
- 研究テーマは絞り、出口は広げた。
- 二兎は追わない
- 技術に目新しさは無いが、組み合わせが目新しい。
- 予算に緩急をつけ、精査する。

10

12

東北農業研究センターの白土さんは、開発研究ステージで小舘さんと同様に3回目の挑戦で採択となった。採択に至るまでの研究展開の流れ整理し、採択に向けての体系的な努力の軌跡を詳しく跡付けてくれた。特に、開発ステージにおける研究成果の社会実装に向けて、研究の社会的意義を明確にするとともに、農業経営の発展に貢献できる体系技術として農家に提供できるように研究内容が工夫された。

さらに、審査委員からいただいたコメントに真摯に向き合い、一つ一つのコメントへの対応を考慮して、研究内容を改善し見事採択に至った。

## 採択まで道のり



## タイトル



- 2013年 水稻の無コーティング種子を **やりたいことだけ** 用いた代かき同時播種栽培技術の開発（発展融合）
- 研究の目玉 キーテク 専門分野
- 2019年 折りたたみ式大型播種機開発と根出し種子実用化による低コストな無コーティング湛水直播の普及拡大（開発研究）  
**専門外と思われてしまった**
- 2020年 儲かる業務用米生産を実現する無コーティング種子湛水直播技術の確立（開発研究）  
ひっかかることは **専門分野 社会的意義を入れた専門分野にした**

## 2013年不採択通知（2次）



- ・ キーとなる技術に乏しい
- ・ 浅層土中に播種できる播種機のシーズが不明瞭
- ・ 東北3箇所ですべて同じ品種でないと比較不能
- ・ 播種機の改良には研究期間が短い
- ・ 東北地域以外への波及効果が不明確
- ・ 新旧技術比較に別品種を用いるのは×
- ・ 播種機を農家が簡単に取り付けられないのでは

→実績がないのが辛かった  
→共同研究・実績につながった

## 2020年度応募にむけてやったこと



- ・ 研究・普及実績を増やす（普及活動、特許出願）
- ・ 新聞の取材に応じる
- ・ コンソとしての活動（応募前検討会）
- ・ 説明会、相談会
- ・ ハイテク研究会のアドバイスを仰ぐ（客観視）
- ・ 採択課題を調べる

研究・普及の能力を  
信用してもらう

やれることは全てやる

- ・ 稲作における湛水直播の位置づけ（非専門家）
- ・ 新聞記事で関心の高さをアピール（意義）
- ・ 目的・目標・研究課題を対応させる
- ・ 目標が達成できそうなデータを示す（根拠）
- ・ キーテクをアピール（根拠）
- ・ 研究実績で能力をアピール（能力）
- ・ 普及実績で事業化可能性をアピール
- ・ 研究のインパクトを数字で示す（効果）

なお、3人の報告内容については、東北ハイテク研のホームページからダウンロードできるので、是非ダウンロードして活用して欲しい。

特に小舘さん、白土さんの報告は、苦労して3回目に見事採択になっただけに、採択に至るまでの苦労と改善点、さらには審査委員の審査の着眼点などが体系的に整理して対応され、見事採択に至っている。

当研究会では、競争的研究資金（イノベ事業、スマ農プロジェクト等）への応募相談、申請等への支援につきまして常時受け付けております。ご希望の方の連絡をお待ちしております。